

連盟ニュース

312

神奈川

1

2011.1.11



『暁の赤岳』(八ヶ岳連峰・硫黄岳にて) 撮影：トリコシアキオ(<http://tory.com/>)

迎春	理事長 後藤真一	2
冬山に向けての注意喚起	遭対部長 田村和寿	3
第32期 臨時総会 開催のお知らせ		3
湯河原梅林公園環境保全活動 1 / 16 ご案内		4
広沢寺の岩場清掃集会 2011 (第12回) ご案内 3 / 6		4
丹沢大山里山交流会 in はだのご案内 2 / 6		4
横浜ハイキングクラブ 35周年記念イベント報告	永野光重	5
会報作り懇談会12/14報告		7
雪下ろし(新潟県十日町)の事故防止活動に参加して	中山建生	8
自然保護委員会議事録12/20	川崎柴笛クラブ 吉崎玲子	9
丹沢クリーンハイク準備会		13
12月事務局長会議議事録		9
特集 個人会員制について	田村副理事長	11
12月・1月常任理事会報告		13
神奈川県勤労者山岳連盟各会の活動報告と予定		14
登山時報紹介 15 / 県連のスケジュール / 全国会議行事予定		16

神奈川県勤労者山岳連盟

〒221-0822 横浜市神奈川区西神奈川1-18-2 永田ビル3階

TEL/FAX 045-434-2726 <http://www.k-rouzan.net/>

発行責任者 後藤 真一

振込先 郵便局 世界貿易センター内局 #00290-9-15228

他金融機関からは 029店 当座0015228



迎春

理事長 後藤真一

年末年始は寒波到来ながらも県連内では事故もなく安堵しました。これは各会員のリスク管理が個人レベルで徹底されたことであろうと思います。

さて、県内で最も入山者の多い表丹沢に眼を向けると、秦野署管轄において14件の救助要請事故が発生しました。転倒3件(左足骨折2件、軽度捻挫1件)、道迷い3件(すべて無傷)、転落滑落3件(胸腰骨折、頭部挫傷、不明)、心肺停止1件(6年ぶりに死亡事故)、足痙攣1件、疲労1件(右足肉離れ)、靴擦れ1件、連絡不足1件(計画無連絡による本人と家族の思い違い)。このうち8件には県のヘリコプターが出動しました。特に最後の「連絡不足」は皆さん自身にも置きうることで、本人は家族に対して「丹沢へ行ってくる」と告げただけで、てっきり家族は日帰りのつもりでいたのに帰宅しないため警察に連絡が入りました。「丹沢へ」と言っただけで、どこからどこへ登るのかも不明で、丹沢を取り巻く各警察署は大騒ぎとなりました。秦野警察山岳救助隊も10時間以上捜索活動を実施、ヘリも出動となりました。結局ご本人は塔ノ岳の尊仏山荘に宿泊して翌日降りる計画。家族や登山届ボストに登山届を必ず提出するよう散々警察からお叱りを受け事なきを得ました。

また趨勢(山ガール等)を反映しているのか20~40歳代前半女性の救助依頼は4件。内1件は周知のとおり県連主催の源次郎沢転落事故ですが、残り3件は疲労、靴擦れ、捻挫ですべて一般登山道で起きています。ファッションから入るのも結構ですが、身体作りや装備の準備を不足なく学べるような環境に身を置くことが必要かと思えます。

話は別で、最近クライミングゲレンデにおいて、登り出す前にクライマーとピレイヤーの安全チェックを行っている風景を以前より多く見かけるようになりました。「ハーネス折り返しOK!エイトノットOK!カラピナロックOK!ロープOK!(ピレイデバイスにロープを正しく入れているか)」などです。彼らは山岳会に入っていない人も多くいますが、こういったリスク管理はもとより、お互いを

援するコミュニケーションなど一番大事な人間関係作りは、下手な山岳会より余程しっかりしている気がします。また古い会ほど停滞してしまいがちな新しい装備、技術、そして考え方も然り。素晴らしい会作りをしていらっしゃる方々には怒られてしまいそうですが、このようなコミュニティも将来の山岳愛好家たちの集まりになっていくかもしれません。我々のような山岳団体も将来を見据えた新たな考え方を持ってコミュニティ作りを応援していく必要があるのではないかと個人的には思っています。キーとなるのは、会も連盟もその役割とは何か?を考え実践することでしょうし、発足理念のよい箇所と登山の趨勢、そして将来に対する先掛けをミックスしていくことでしょう。

今、そのような担い手である役員(常任理事、理事)が不足してきております。スーパーマンでなくともよいです。ご自身でできる何かをやってみようという方、是非ご一報くださいませ。



冬山に向けての注意喚起

遭難対策部 田村和寿

お正月にはいかがが過ごされましたでしょうか？ 大量遭難が予想される天候パターンでしたが、何事もなければ幸いです。

近年の傾向としては気温の寒暖差が大きくなり、暖かい冬だと油断していると（雪が少ないと思っていると）、災害規模のドカ雪が降ってきたりします。寒暖差はすでに積もっている雪に対しても弱層を発生させることがありますので、新雪がなくとも雪崩が起きることがあります。過去の記録や自分の経験を過信することなく、現状を冷静に判断することが必要と言えましょう。

天気の詳細は難しいですが天気予報を毎日聞き、特に「寒気」や「不安定な天気」といったことばが解説に出てきたときには、山では天気は悪い方に考えた方が良いでしょう。

また高齢の登山者、若い登山者、双方に経験の少ない登山者が増えてきており、今後の事故の発生が懸念されます。登山者同士で互いに注意しあうことも事故防止には必要であり、また登山組織への加入の促進になるのではないかと思います。

第32期 臨時総会 開催のお知らせ

下記の通り第32期臨時総会を開催致します。

各会におきましては代議員の選出をお願い致します。代議員は、会員10名につき1名、10名までの会は1名選出して下さい（2月1日現在の会員数）。但し、代議員は本連盟の理事・会計監査を除きます。

また、次期新理事の推薦をお願い致します。

記

日時：2011年3月13日（日） 10時00分～16時30分

受付：9時45分

会場：市民活動支援センター（クリーンセンタービル4F）

横浜市中区桜木町1-1-56 みなとみらい121 045-223-2666

桜木町駅 下車徒歩6分 みなとみらい駅 下車徒歩8分

- 議題：(1) 規約改正・改廃
 (1) 上期の活動報告・下期(前)活動方針
 (1) 個人会員制度について検討



「湯河原梅林公園環境保全活動」のご案内

目的 クライマーの自主的活動により、湯河原梅林公園内の清掃活動及び、てんとう虫ロックエリアの浮石点検活動を行い、湯河原梅林公園を訪れる入園者の安全の確保と環境の保全を図ることを目的とする。

日時 平成23年1月16日(日)午前9時から正午まで
(雨天の場合は、翌週へ延期)

場所 湯河原梅林公園内(神奈川県足柄下郡湯河原町)

主催 小田原クライマーズクラブ(代表:西村誠)

後援 神奈川県山岳連盟、神奈川県勤労者山岳連盟、日本フリークライミング協会

協力(予定) 山岳塾、相川スクールOB会、小田原ナーゲルの会、湯河原観光ボランティア協会、
ジャパン・アルパイン・ガイド組合、モンキーマジック、ストーンマジック(順不同)など

協賛(予定) 株式会社アルテリア、株式会社ICI石井スポーツ、株式会社カモシカスポーツ、
株式会社ゴールドウィン(ザ・ノース・フェイス事業部)、モンベル、岳人、patagonia日本支社、ストーンマジック、ロックフィールド、山と渓谷社、株式会社プロスSWEN

参加費 無料

持ち物 登攀具、ロープ、軍手、持っている人は手鎌、鋸、使えなくなったピッケル、点検用のスパナなど

活動内容:

湯河原梅林公園の清掃活動を実施する。園内のごみ拾い、散策路に落ちている転石を処理する。ごみは分別して集積する。

こんとう虫ロックエリアの浮石点検活動を実施する。終了点と中間支点の安全を確認した後、浮石の点検を行う。併せて浮石の原因となっている灌木や雑草の除去を行う。活動は落石の監視、入園者の誘導を行い、安全に留意する。

クライマーの駐車場の利用について

クライマーの駐車は、長時間や一日中停めることが多いので、駐車場の利用の仕方が問題となっています。「梅の宴」開催期間中は観光客を優先し、クライマーは下の方の駐車場を利用するか公共交通機関を利用するように配慮してください。

丹沢・広沢寺の岩場清掃集会2011(第12回)

日時; 2011年3月6日(日)、9:00~12:00(集合8:30)

場所; 丹沢・広沢寺の岩場(集合場所; 広沢寺前駐車場)

内容; 岩場と周辺道路の清掃と、地元の里山作り運動への協力

持参品; 軍手とゴミ袋

備考; 雨天決行

連絡先; [広沢寺の岩場を守る会 事務局]

〒186-0003東京都国立市富士見台1-27,1-21-106 安村淳方

電話/ファックス042-575-6131 mgorilla@ma.ejnet.ne.jp

丹沢大山里山交流会inはだの

日時; 2月6日(日)10:00~15:00

場所; NPO法人四十八瀬川自然村フィールド/県立山岳スポーツセンター

内容; フィールドいろいろ発掘・報告会・意見交換

申し込み・問い合わせ; メールまたはFAXにて下記までお申し込みください。

事務局; 神奈川県自然環境保全センター 自然保護課(担当:大木)

: 046-248-6682/FAX:046-248-2560 ohki.baik@pref.kanagawa.jp

35周年記念イベント報告(平成22年12月11日～12日)

横浜ハイキングクラブ 永野 光重
(イベント実行委員会副委員長)

12月11・12日の二日間の晴天を望みました。何故ならば初日は3ルートによる記念山行、二日目は近くの散策路を利用したファーストエイド講習とバーベキュー、天候次第ではとんでもないことになってしまうと危惧したからです。でも、当会員の皆様方は日頃の行いが良いのか悪運が強いのか不明ですが、二日間とも穏やかな天候に恵まれ楽しい35周年記念イベントを開催できました。

当初から記念イベントの実施方針として「全員参加により更なる親睦を深める。」を合い言葉としました。その為、早い安い旨いと、どこかのフレーズではないですがかなり高めハードル設定になってしまいました。約半年前より準備委員会を結成し会合を重ね、いろいろなことを協議しました。自炊設備のあるイベント宿泊会場の確保。前回の30周年記念イベントでの行事の確認。参加費を抑えるための自炊の負担低減など、ありとあらゆる検討事項がありましたが、さすがに昭和前半の生まれ?の方は動じず淡々と調整を行っていただきました。

参加者もイベント計画が具体化するにつれ増え、楽しみにされていることが傍目にも分かる様になりました。これは絶対失敗はできないぞと・・・を締めなおし委員会の会合を重ね構成を練って行きます。最終的に山行

者と受け入れ準備者を含め45名(86%)の参加者を確保することができました。

当日は前述しましたが、天候にも恵まれ買出しチームとお手伝いチームが表丹沢野外活動センターへ向かいました。車窓から見る大山がきれいで登りたいな～などとボヤキを聞きながらまっしぐら、多量の買出し食品と寄付の手作り料理を運び込み早々に準備に取り掛かりました。

式典会場を飾り付け同泊の別グループに挨拶をすませ、調理も配膳も見事なチームワークで早めに終了し山行グループも無事に到着しました。

いよいよイベントスタート、挨拶もそこそこに乾杯、品揃えも豊富でおいしい料理に話が弾みます。

35周年イベントとして、代表者挨拶、各自よりの一分間スピーチ、景品持ち寄りのビンゴゲーム等と歓声と笑い声に包まれ、丹沢の夜が更けていきます。

翌日は教育部主催の山行講習が行われ野外活動センターにて三角巾を用いた机上教育と、葛葉ウォーキングロードを利用したファーストエイド講習を行いました。

準備班は、山行講習の間にセンター内の会場にて昼食のバーベキューの準備をし、みんなの帰りを待ちます。ちょうど薪がおき火に



全員の集合写真

なった頃、山行チームが帰還、やはり挨拶もそこそこに乾杯、沢山の肉や野菜がみるみる間に無くなってゆきます。やはり山男、山女の食欲は尋常ではありません。食事の合間に挨拶と35周年の記念品(缶バッジ)を配布し会員の方々からねぎらいの言葉を受け散会となりました。

準備も大変でしたが、いろんな方の支援と協力で開催できたことは感謝、感謝の一言です。でも、YHCの会員の底力もすごいですね。恐れ入りました。

最後に、いろいろとご尽力をいただいた関係者の方々にこの場をお借りして御礼申し上げます。

12 / 11
会食風景



12
バーベキュー写真



三角巾講習



記念山行報告 12月11日(土)
グループ1 (CL内田、SL塩川、藤澤、峯崎、深瀬、香月、記録長井 8名)

コース：蓑毛～ヤビツ峠～岳の台～菩提峠～葛葉の泉～表丹沢野外活動センター

晴天の空の下さざんかが咲き乱れる山道を楽しく歩き、菩提風神祠では十数年前にYHCの先輩が植林をされた所だと聞きました。リーダー学校で学んだ葛葉の泉は懐かしかった。

グループ2 (CL飯嶋、SL長谷川、木内、記録溝呂木 4名)

コース：大倉～牛首～三ノ塔～二ノ塔～葛葉の泉～表丹沢野外活動センター



12 / 11
記念山行グループ1集合写真

三ノ塔尾根の急登も小気味よいリズムでトップは行き、皆それについていく。富士山も雪の姿が美しい。三ノ塔は風が強く小屋で



昼食。二ノ塔は風もなくポカポカ。一番乗りでセンター到着。休む間もなく机と椅子を並べる力仕事をした!

グループ3 (CL 桜庭、SL 柘植野孝夫、十津川、川西、清水やす子、羽澤、柘植野悦子、助川、稲垣、記録中尾 10名)

コース：秦野駅～山道入口～浅間山～権現山～展望台～弘法山～吾妻山～弘法の湯～(バス)～表丹沢野外活動センター

秦野駅前の水無川沿いの遊歩道から登り体をほぐしたあと間もなく浅間山着。あいにく富士山は雲の中。八角形の中華風の展望台360度の眺めを楽しむ。丹沢、箱根、伊豆、湘南平タワー、遠くに光る相模湾。弘法の湯で追加の参加者と合流、温泉を楽しみ、会場へと向かった。

会報作り懇談会 12 / 14

日時 2010年12月14日 19時30分から20時30分

場所 新日本スポーツ連盟神奈川県連盟内会議室

参加者 山崎さん(横浜HC)、荻原さん(相模AC)、三上(県連連盟ニュース担当、横浜こぶしの会)

横浜ハイキングクラブ

会報名、「四季」。毎月の発行。編集者は2名、パソコンで編集、ソフトはワードを使用。製本は3名で作業をする。印刷は連盟事務所で行う。編集したパソコンから一度プリントアウトして、それを原紙にし切り貼りしたりして印刷機にかける。だから画質は落ちる。予算は立てていない。

中味は、山行計画と山行報告を載せる。印刷物の郵送は、メール便(80円)を使っている。

山行案内はパソコンを利用。山行計画書は行く人だけに送られる。

相模アルパインクラブ

会報名、「こだま」。年一回発行。カラー刷り。編集者は2名。パソコンで編集、ソフトはエクセル。印刷は個人のプリンターで刷る予定。予算は5万円。

中味は、山行報告のみ。会報の発行は辞めようという話しもあったが、出そうというこ

とになった。2人体制。以前は毎月出していて、印刷場が社交の場になっていた。

山行募集はホームページに。

横浜こぶしの会

会報名、「こぶし」。年二回発行。A4版。編集印刷は一名。パソコンでソフトは編集長。印刷は、組合事務所の印刷機を使用。中味は山行報告のみ。できあがった結果は印刷物(白黒)とPDF(カラー)で流す。

パソコンを利用して山行募集し山行報告を載せている。

連盟ニュース

連盟ニュース名、「神奈川」。毎月発行。B5版。編集印刷は一名。編集会議は4名。編集ソフトは、編集長。印刷は組合事務所の印刷機。毎回B4とB5も紙を買って印刷。パソコンから直接印刷機に接続して印刷するから画質は良。印刷部数は400。PDFを理事と事務局長に流し、ホームページに掲載。企画案内と各報告を載せるが、年間方針は無い。



雪下ろし(新潟県十日町)の事故防止活動に参加して

2011.1.5 中山 建生

12月16日横浜で関東ブロックおよび神奈川の生徒の雪崩机上講習を行なった。今年もまた雪への親しと不安の季節が始まった。18日、19日は谷川岳に雪崩ビーコンと搜索訓練、雪の観察を行なった。振りって今年の1月、新潟県十日町池谷集落の雪下ろし作業の安全ためにとして、ロープの活用をと現場にいった。この集落は上越地震で大きな被害を受けた場所。狭い山地の棚田の畦や水路が崩壊したため再び稲を育てることに大変な苦勞をされた。かつては多くの住民が生活していたが、今では10世帯を下回り、平均年令が70才を越えている。暖冬傾向で雪が少なくなったといえ、ここは新潟でも有数の豪雪地域で4mにもなるうとする雪が積もる。雪下ろしをしなければ家は潰れてしまうから、いまではお年寄が雪下ろしをしている。国道までの道を除雪しなければ生活ができないのを知って、ああ大変な場所で生きているんだと痛感した。私が関わったのはいまから5年以上前となるが、雪下ろしで死者がであることを知ってから、安全作業のためにロープの利用ができないかと相談を受けたときから始まった。雪国の人達はロープを作業に面倒なものとして感じている。山での技術がそのまま使えるわけではなく、実際の作業の進展を妨げないような方法、しかも必要最小限度の負担や、簡易さが求められた。都会から雪下ろしの体験を求めて、この地へ入ってきた若者たちは、雪下ろしの現実を素直に受けとめている。都会にはない素朴な人達、自然の恵み、雪の無い時期の田植えや草取り、ブナ林の中での文化の集い、こうしたものが新鮮な感動を無言で伝えているように思う。

今年は前日に大雪となり、湯沢の手前で仮眠をしたが車の雪を取りのぞくのしヨベルで一時間開を要した。行き着くまでどうなるのか不安にかられた。前年は雪が少なくて春先のようにであった。今年は大雪となるのか、心配の種が増えそうである。私の活動を知る人達はこれに参加したいと声をかけてくれる。しかし、登山やスキー、ボードをする人達は

自ら滑りたい、登りたいとする人達でもある。この気持ちを押さえて、ここでの活動や参加は替えがたい体験になると思う。朝日新聞に「雪害深刻」10年間で犠牲439人、90年代の倍という記事に目をひかれたかもしれない。雪と関わる仕事をしている私には他人事には思えない。

私は横浜に住み、雪下ろしなどしたことがなかった一人である。雪崩埋没者の掘出しに、ブロックを切って掘り出すことの効率の良さを救えて、見本を示すが、池谷のお年寄にはとても勝てない。体をまっすぐに腰を安定させ、手際の良い雪の掻き出し、投げ下ろしは見事である。ロープは教えても雪の投げおろしは彼らから学んでいる。春になれば山菜を採りに山のなかに入り、たぶん素早く移動して、短時間にたくさんの収穫を得ているに違いない。肌は艶々して、まったく年令を感じさせないとはこのことだと思う。都市の生活と過疎の集落の生活には自然に向き合う中身が違う。お互いにそれぞれの生活を知らずに生きていることには関心を生む、協力をしあうという関係が生まれにくい。いつのまにか私たちは慢った気持ちと自己保身から、社会生活を一人自分だけで生きていると、孤独の中で生きているのに疑問も生まれにくい。他人と関わることを面倒なことと嫌う。まして役に立とうとする意識はめったに外た現われなから積極的な行動や関係が築けないでいる。それゆえ、常に弱いものが犠牲にされる。そしてこれを知らされても他人事と醒めた目で見ています。山登りから他に目を転じてみるといい。ここに集まる若者たちは素直で気持ちのいい人達である。こうした若者たちを見ると、都会に戻ったときの失望が大きい。都会も捨てたものではないと気を取り直すが、見えない雪に埋められもがいているのは私たちだと思うことが多くなった。



12月20日 自然保護委員会議事録

出席者 大用(川崎HC)、渡辺(相模AC)、高橋・萩原(藤沢山の会)、三上(横浜こぶしの会)、磯部(地平線の会)、関根・千葉(みずなら山の会)、吉崎(柴笛クラブ・記録)

今月より時間のある時に、自然保護に繋がりのあるテーマを一つ取り上げ、小勉強会を行うこととする。

小勉強会第一回：テーマ『生物多様性について』

三上さん提供の資料を読み合わせ、皆で意見交換を行った。

・自然に対して人があまり手を加えないで、生物間の自然淘汰に任せるのが良い、といわれている。

・丹沢では、人の手を加えて昔の姿を取り戻す必要がある、という話がある。

・クニマスが西湖で発見されたのは、人の手で卵を移し、それが結果として種の保存に繋がった例。

・日本では外来種と固有種に関する問題が大きい

・ザリガニ、ミツバチなどは固有種を守ろう

と努力している人が居る。

・イギリスには固有の生物がないという。日本は固有種が多い特殊な環境を持っている。
・絶滅種の増えて行くスピードの早さがあまり取り沙汰されないのは、人の生活にほとんど影響しない為。

・農薬に耐性のある害虫が東南アジアから日本に飛来するなど、他国の問題が日本の問題になりうる。

・レアメタルと公害、自然破壊。

・生物多様性条約の趣旨を、自分達の周りの環境改善の考え方に生かせるのではないかな。

・組織としてではなく、個人の努力と取り組みが大切。

・自然保護へかける予算が少なすぎる。

・商工会議所主催の「エコ検定」をおすすめする。色々の事を知ることが行動に繋がる。

・ポラネットの講演会へ出席することもおすすめする。

・今後自然保護委員会では、講師を招くなどして、自然環境について楽しく勉強してゆきたい。

次回自然保護委員会は2011年1月24日(月)19時より、クリーンハイク準備会として行う。

12月 事務局長会議 議事録

2010年12月14日(火) 7:20開始
司会 池上事務次長

出席者：小池(川崎労山)、三浦(川崎HC)、中田(AC横浜)、丸尾(横浜HC)、南雲(横浜こぶし)、蝦名(相模AC)、末吉(みずなら山の会)、黒井(雪童山の会)、栗田(やま++)、後藤(山岳素行童人メーグリ)

理事：田村(副理事長)、蝦名(財政)、三上(機関紙)、池上(事務局次長)、西川(事務局部員)

【1】県連からの連絡事項

1. 確認事項

会員登録申請書について・・・「各会」から全国に提出11月30日(火)迄に提出した会には会員証が送られて来ています。まだ未提出の会は提出を急いで下さい。

地方連盟組織数報告用紙提出

担当：後藤理事長

内容：11月末現在の会員数、男・女性・

新特別基金加入数・時報購買数

締切：12月25日(土)厳守

規約・規定改正意見書提出12月14日(事務局会議)川崎柴笛クラブ・やま++・横浜HC・川崎HC 4会が提出。

個人会員制意見書提出12月28日(金)

1月号の【活動報告と予定】12月29日(水)迄に提出

会山行報告を1月号横浜HC・2月号やま++・3月号相模AC

3月13日(日)臨時総会桜木町の【横浜市市民活動支援センター】で開催します。各会から10人に一人の割合で代議員の出席をお願いします。常任理事を除く。

【2】各会からの報告

【川崎HC】三浦です。変わりありません。

【横浜HC】丸尾です。活動報告にも載せましたが屋久島で女性メンバー(64歳)が歩行中に呼吸困難になり男性メンバーがしばらく背負って歩くうちに回復、体調管理の大切さ搬送方法のトレーニング冷静な対応等教育の大切さを痛感した。屋久島は携帯電話が通じない。ガイドを頼むべきだった。

12月11日 12日丹沢野外活動センターで35周年のイベントを開催85%の出席率で3コースを歩き翌日三角巾の使い方担架の作り方を勉強しました。1月号の連盟ニュースに山行報告として載せます。

[川崎労山]小池です。12月11日 12日谷川で雪トレを行いました。今会でも規約の見直しをしています。県連からも個人会員、規約等重なって中々纏まらない。

[雪童山の会]黒井です。年末年始の山行に向けて三ヶ峠、八ヶ岳、谷川岳で雪トレをしています。

[やま++]栗田です。みずならの会の方車上荒らしに遭う。気を付けたい。

[AC横浜]中田です。11月27日 28日訓練。27日は机上勉強、28日野外で三角巾、担架、添え木等実施訓練。12月18日~19日富士山降雪訓練。

[横浜こぶしの会]南雲です。あまり山に行っていない、末に八ヶ岳を計画している。

[相模AC] 蝦名です。冬山に向けて11月はポッカトレ(男25キロ、女20キロ):鶴巻温泉~大山南稜縦走。雪山訓練:天神平雪が少なく歩行訓練でした。

[山岳素行童人メーグリ家]後藤です。今年個人的には150回山行。60本の沢を遣りました。軽い事故ですが越沢パットレスのスラブをアイゼンで登ってたのですがハーケンが2本抜けて4~5m落ちて顔に軽い傷、今度行く方はハーケンが抜けてますので注意して下さい。

[みずなら山の会]末吉です。12月4日早戸川林道で車上荒らしに遭う車2台フロントガラスを割られ被害1台17万~18万位保険が出ない代金10万を忘年山行で行ったので会からも援助参加者 人5,000円負担になりました。気を付けて下さい。

[リーダー学校報告]田村です。12月4日~5日富士山で雪トレをして下山三合目付近で30代女性骨折、素人には捻挫か骨折か判断しにくい、歩けなければ骨折を疑いアイシングをしっかりとした方が良い。

【3】その他

[会計担当]蝦名さんから
連盟費AC横浜確認が取れていません、カモの会8月から未納です。1月決算ですのでお願いします。

[事務局]池上から

1月11日事務局長会議の日事務所で新年会をしたいと思います。会費500円です。宜しく御参加をお願いします。

[全国理事会報告]田村副理事長

< 共済制度について >

遭難対策基金は11月12日改正の改正案が可決し生き残れることにはなりました。ただし条件として具体的に金融庁が作成、政府省令として発表、一般社団法人として運営、従来通りと言う事ですがどの位今迄通りの運営が出来るか。

< 労山メディアの活動について >

全国メディア局を開きました。労山から内外に向けてコンテンツを使って教育活動に生かしていきたい。すでにナマステマージングニュースで転送しています。月2回です2号迄送られています。神奈川は自称区になっています。イベントや山岳情報等活用して活動に役立てて下さい。コンテスターのホームページもあります。

< 会員登録について >

11月30日までに会員登録更新をお願いしました。登録済の会には新しい会員証がもう送られています。事故が起きた時各会に対応が出来れば良いのですが警察等から直接全国労山に問い合わせがいくことがありこのような形にして貰いました。

今までは登録しなくても遭対基金は使う事が出来ましたが、是からはリンクしていきますので登録をお願いします。まだの会は12月25日迄に男女別の人数、遭対基金口数、登山時報を西川までメールして下さい。

11月末の会員数によって来年の1月~一年分の全国会費が決められます。人数減があると県連の持ち出しになる。このやり方には課題が残る。

《後藤理事長からの報告》

丹沢の救助隊長を遣ってるのですが12月10日戸沢の臨時派出所の閉所式に出たのですが、今年表丹沢の事故は13件其の内7件がヘリ出動でした。相変わらず高齢者の方の事故が多く6年振りの死亡事故も有りました。68歳の男性滋賀労山の方でした、心臓発作です。今年の特徴は4件が40歳以下の女性ヤマガールが出てきたのか、足の捻挫、20歳前半の女性は靴ずれヘリを呼んで降りた。準備、知識不足が目についた。もう一軒は奥さん(日帰り

と思っていた)からで下山しないということで
 秦野、伊勢原、松田、相模、厚木5町村が出
 て10時間あまり捜索、ヘリも出動、男性から
 の連絡で尊仏山荘に宿泊、計画書を出して行

かない事例。

神奈川県ではヘリが5機あるそうですがこ
 んな使い方では是からだんだん有料になる事
 も考えられる。

<特集> 個人会員制について(田村副理事長)

12月14日 事務局長会議 報告

田村副理事長から「個人会員制」について説明が
 有りましたので報告します。

私の会で説明用に作ったのが下記の「忙しい人の
 ための、個人会員制度説明」です。発端は2月の全
 国総会で、提案が(全文8ページ)されましたが、ま
 とめてみましたら1ページになりました。

「忙しい人のための、個人会員制度説明」
 (田村氏/11月末作成)

導入理由

1. 数の危機(会員数、組織数)、高齢化
2. 「登山の普及」という登山の任務の遂行
 日本山岳会でも、同じ危機感を持っている。こ
 のままでは登山文化や技術の継承ができない。

概要

1. 従来の組織(クラブや山岳会)の制度は存続。そ
 れと共存させる形で新たに個人会員制度を設ける。
2. 会員証を発行する
3. 遭難対策基金への加入、登山時報の購読
4. 登山メディアや、各講習会の利用
5. 会費の徴収など、実務の多くは全国が担当
6. 従来の組織会員制度と、個人会員制度間での移
 行も可能(個人会員から組織会員になることに期
 待)
7. 山行管理は全国が担当(ネットを利用)

プロセス

1. 2010年の総会にて提案。2011年の全国評議会に
 て制度導入を検討する。
 (2011年から2012年には決定したい)
2. 全国の制度としてスタートするが、3~5年を目
 処に地方連盟の制度に移行してゆく。

考察

現代の若者

男性：ワンゲル、山岳部が復活。ただし卒業後、
 山は続けても、組織には入らない。

女性：山ガールの発生。健康志向、ファッション、
 パワースポットめぐりなどのブームが牽引。
 自分たちだけでグループ化するか、ツアー
 に参加。

山の魅力をわかっていない。われわれも彼らの志
 向を理解していない。

登山の組織改革は、21世紀の生き残りど・・・
 登山文化の発展への創造的チャレンジ!

次に、「川崎柴笛クラブ」から出された質問に答
 える形で話をさせて戴きます。

個人会員制度に関してQ & A (田村副理事長)

Q: 会員数が減少による遭難基金など財政難の為
 に個人会員を増やすのはどうか?

A: 確かに、このまま会員数が減少した場合に財
 政的な問題が生じるのは間違いありませんが、個

人会員制自体はこの問題とは切り離して考え、下
 記のような状況に対処するのが目的と考えていた
 だきたいと思います。(一石二鳥を狙っているこ
 との否定はできません)

われわれ組織登山者とよばれる登山や日本山岳
 協会などの活動の中心が、組織内部に向けられ
 ることが多く、圧倒的多数の未組織登山者に手が届
 かない現状の中で、衝撃的な大量遭難が2009年7
 月に北海道の大雪山系トムラウシ山で発生した。
 トムラウシ山の9名死亡は、同じツアー会社の参
 加者とガイドであり、商業登山のありかたの問わ
 れる大事故であった。この事故をめぐっては山岳
 雑誌でも詳細な特集を組み、登山や日山協などで
 つくるレスキュー協議会と日本山岳文化学会の遭
 難対策分科会との合同の事故検証の会議も開催さ
 れた。

この事故の検証の作業の中で、未組織登山者
 に対する登山や日山協の組織としての責任を問う声
 も登山界の中からあがり始めたことは重大である。
 直接の責任ではないものの、膨大な未組織登山者
 への指導や援助を怠ってきたことは明らかであり、
 その社会的役割の放置という意味での責任が無い
 とは言えない。

日本の登山界の現状に再び眼を向けると、社会
 的な条件が悪化しているにもかかわらず青年や若
 い女性が登山に魅力を感じて登山やハイキングを
 楽しむ姿が、特に有名な山々で増えているという。
 これもマスコミや山小屋関係者の話で、われわれ
 が正確にその情報を把握しているわけではない。
 しかし、確かに富士山や北アルプスの一部など、
 青少年や若いパーティーを見かけるのである。た
 だ、この多くは、われわれ組織登山者の手の届か
 ないところでの新たな動きである。トレールラン
 という新たな山岳スポーツの流行の兆しやフリー
 クライミングへの青少年の参加、その他キャニオ
 ニングやラフティングというアウトドアでの新し
 いスポーツなど、登山や山岳にかかわるスポーツ
 は多様化しつつあり、それらへのわれわれの対応
 や認識(それらが登山にどうかかわるかも含め)は
 相当に遅れている。(第29回総会議案からの抜粋)
 わたしたちは、登山創立の原点である「国民的な
 登山の普及」の目的に立ち返り、さまざまな事情
 により山岳会に加入していない未組織登山者を、
 より緩やかな組織形態で仲間として受け入れ、登
 山知識や技術を学べる機会を提供していきたいと
 思う。(第29期評議会議案案より)

Q: 「全国の制度としてスタートするが、3~5年を
 目処に地方連盟の制度に移行してゆく」とあるが、
 いずれ地方連盟の負担が増える事になるのでは?

A: 私(田村)もそのように考えています。

Q: 山岳会も組織会員を辞めて個人会員になるこ
 ともあるのでは? そのほうが登山の業務をしな
 いですむのでは?

A: ありうると思います。

Q：登山文化や技術の継承ができないとあるが、技術を覚えたいのであれば山岳会に入会した方がよいのでは？個人会員から山岳会への入会者が増える事を期待したい。

A：個人会員制度に関する正式な議案名は、「新総合戦略の「個人会員制度」導入と組織強化の活動方針」です。後半の「組織強化」の内容には、現山岳会、クラブの組織強化も含んだ内容となっています。

個人会員制ができた場合でも組織（会）の魅力を向上させ、極力個人会員を会に取り込むような活動も行います。

Q：各山岳会だけでも良いんじゃないか？個人会員を募集することに付いて、労山ならではの良さなどは無いかな？

A：組織強化の活動も含めて、もっと議論すべき内容だと思います。

Q：個人会員を含めた講習会などの安全対策の面はどうか？

A：各地方連盟が行っている講習会に、個人会員も参加できるようにします。それと、現在進めているメディア戦略での学習ネットにも参加できるようにします。

<質問> 「搜索救助要請規定」9条に連盟外の者から搜索救助の要請を受けた場合、常任理事会で協議したうえ決定する」とありますが、関係有りますか？

<回答> 関係有りません。個人会員に対して救助に向かわなければならないという義務はありません。ただし、救助隊（他県も）としては、要望があれば出来るだけ協力はしてあげようと言う動きになっています。常任理事会で協議したうえ決定することになります。埼玉県連では、埼玉県内で救助要請が有ったら、労山外であっても一般の人でも要請を受ける事を決め（会議で可決）しました。

次に、全国の「個人会員制導入の基本構想(案)」(11/16付)についてお話をします。これは、来年2月19～20日に行われる第29期評議会の議案の「叩き台案」（大沢理事私案）です。

まず、個人会員の「愛称」は、「ろうさんパートナーズ」（仮称）となりました。個人会員の「権利と義務」については、現行規約を改正して明文化をはかる、そうです。「利用可能制度と特典」は2ページに書いて有る様に受ける事が出来ます。

「安全対策と教育」は、メディア局と遭対部でテキストを作成（安全登山教育、新加入個人会員教育）し、教育する。「山行管理」は、計画書・下山報告を郵便・FAX・メールで行う（7～8ページ参照）。「会費とその構成費用の設定」は、年間費6,000円で内訳は、情報学習費3,000円、遭難事故対策費3,000円（3口で固定）です。我々の現行連盟費月額130円に対して、情報学習費の月額換算額は250円なので、我々の1.9倍になる。個人会員の方が、負担が大きいと全国は説明している。当初目標を1万人に設定したのは、新システム導入のためパソコン等の新しいインフラ整備のため、新特別基金から1000万円強の借り入れをするためです。ただ現在労山会員が2万人に対して1万

人が入ってくれるかの検討がされているのか判りません。

<やま++> 意見を出してくれと言われた時一番参考になったのは、中山会長が連盟ニュースに書いた意見でした。人が減っていくのを食い止めるには何とかしなくては（個人会員制を実施する必要性）と聞きましたが、動機がわからない、中身が判らないと言う事で、積極的な賛成はなく、賛成3、反対6でした。進め方が我々会員まで届いていません。一番問題になったのは山行管理で、ここに書いてありますがどうやってやるのか疑問です。その人の力量をどうやって知るんですか。どうやってOKを出すんですか。全国から県に来たときに負担ばかり増えるのではないかと強迫観念を感じます。

<田村氏> 私も県連の役員と、全国の理事の立場が有るので、なるべく主観を入れない様に説明しています。非常にやりにくい立場にいます。山行管理は下山チェックだけです。山行は自己責任です。神奈川では決まっていますが、救助要請が有った時は救助隊を出すと思います。会員ですから。個人会員の方々の事故の発生確率が今までと同じなのか、力量とかを確認しませんので事故が多くなり遭対基金が守られるのか心配です。

<蝦名氏> 今回具体的な基本構想(案)で、見えなかったところも見えて来たんですが、この個人会員制を全国で進めてやってくれるならば、色々な意見を言えるんです。ただ、これが県に降りて来たときの負担がどんなものなのかを、具体的にはつきりしないと賛成出来ません。計画書管理、下山管理、遭難になった時、金の集め方、支払い等具体的な事を知りたい。個人会員制が最初に提案された時に、救助隊長から救助について負担ばかりだと心配をしていました。1～2年前ですが、全国から回答が来ていません。我々の負担がどれだけに成るのか先に出して欲しい。個人会員制が良いか悪いかの話ではなく、結果的に我々がどれだけ負担を負う事になるか。負担の量で賛成反対を判断する事になるのではないかな。

<後藤氏> 全国でセクションを作り専従を置いてやらないと、うまくいかないだろう。地方連盟では温度差が有りすぎる。出来ないところがある。「j」RO(ジロー)は、保険だけの繋がりて会員を集めて、入山・下山チェックを携帯メールでやっていますが、これだけでは無く、これからの若い人達に、登山の文化を継承していってもらうために、山ガールや、山ボーイ？山女？に呼び掛けていく必要が有ります。彼らにとって山岳会の組織は、規則などハードルが高く入りにくい。但し、自分達同世代の仲間達とコミュニティーを作る能力は凄くたけています。ネットや携帯などメディアを使って色々な企画をくんでいます。私は将来の山岳会はそのような形になり、今の山岳会は無くなると思っています。

年明けの登山時報3月号に神奈川の意見を掲載して欲しいと有りました。集約されていなければ賛否両論を箇条書きで書いてもOKとの事ですので、皆さんの意見を文章に出して欲しいと思います。会として出されていても個人的にメールを送って

戴いても結構です。出来れば年末までをお願いします。

個人としての意見を言わせて戴くと、私は、個人会員制は有りと思っています。但しジローの様に闇雲に入れて良いとは思いません。労山が今まで培ってきたものを伝えていきたい。教育（リーダー学校）から組織化（個人会員制）していきたいと考えています。これで1万人は無理かも知れませんが。

話しが変わりますが、労山内の指導員（インストラクター）は一杯いるんですが、教え方、技術の内容とか温度差があります。これを標準化したいと言う動きが、特に関東地区で大きくなり、全国でも進めていこうとなっています。議案の付随事項と言うか、追加事項として出される予定です。標準化されれば各種講習がもっと幅広いものが出

来て、学習ネットとか、教育のチャンスが今の10倍100倍に広がっていく訳で、教える内容も足並みがそろっていくので、日山協や都岳連がやっているのと違って良いものになってくると思います。そう言う個人会員制有りもいいなと思っています。

「個人会員制導入の基本構想(案)」(11/16付) (大沢理事私案)は、事務局長さんにお渡ししてありますが、希望される方は事務局西川までメールして下さい。すぐ送ります。

西川メールアドレス: nisikawanorio2001@yahoo.co.jp
「jRO(ジロー)」: 新しい山岳遭難対策制度で、山を愛する方々の相互扶助の精神にもとづく新しい会員制度で、新たに設立された日本山岳救助機構合同会社によって運営されます。

文責: 県連事務局部員 西川憲男

2010年12月6日

常任理事会報告 田村

関東ブロック雪崩講習会への参加者が少ないので、連盟ニュースに再度募集を載せる。

連盟ニュースの印刷数を480から400に削減する。

1月の事務局長会議は、早めに終わらせて新年会を行う(12月の望年会はなし)。

12月25日の締め切りで、各会に組織調査を依頼中
臨時総会の総会の議案原稿締め切りは12月24日とする

県連理事の理事会への参加、担当役に関しては理事の意識改革が必要。

会計担当より

入金の流れはなし

1月は決算なので、各部は決算書を提出すること

会計担当の後任が必要(引き継ぎの作業の期間を考えると、早急に決める必要あり)

リーダー学校の雪上トレーニングでの下山で、足首骨折の事故あり。サポートされながら自力下山。

上記のような県連行事での事故発生時には、早急に三役(会長、理事長(もしくは副理事長)、事務局長(不在のため事務局長代理))に連絡を行うこと。

常任理事会議事録

2011/1/06(木) 19:20~

出席者: 後藤理事長、大用、蝦名、三上、海輪、西川、池上

後藤理事長

総会議案書(案) 確認・検討

こまくさ1月31日退会、理事会で承認する。

富士山下山馬返し付近で30代女性足骨折。

1/16(日) 湯河原幕山清掃、石の撤去整備等参加要請。

9:00開始、バスが鍛冶山行かないので注意。

3/06(日) 広沢寺清掃、軍手、ごみ袋持参。

財政(蝦名)

今期で財政担当を降りたい。後任をお願いしたい。

機関誌(三上)

臨時総会の原稿が届かない。今日検討の予定だったが。

事務局(池上)

1/11(火) 事務局長会議の後簡単な新年会をします。

3/13(日) 臨時総会の件、早めに連盟ニュースに掲載する。

第34回 2011丹沢クリーンハイク 実行委員会準備会

日時 1月24日(月) 19時30分~

場所 横浜市神奈川区西神奈川1-18-2 永田ビル3階

自然保護委員会と同じ部屋

各会の自然保護委員の方、クリーンハイクに参加してみたい方の出席をお待ちします。



神奈川県勤労者山岳連盟各会の活動報告と予定

川崎勤労者山岳会

報告：小池 秀子 計43名(男27 女16) 平均 歳

11/27 奥多摩・越沢バットレス (6+4)	(11)	12/18 陣馬～生藤～井戸(2)
11/27 奥多摩 本仁田(1)	12/5 湯河原 幕岩(1+1)	12/18-19 上越・奥志賀山スキー(1+3)
11/28 奥多摩 大塚山～日の出山	12/11-12 上越・天神平(13)	12/19 湯河原 幕岩(4+1)
	12/12 上越 天神平(5)	

川崎ハイキングクラブ

報告：川上勝夫 計100名(男50 女50) 平均62歳

11/17 秩父三十四ヶ所めぐり/秩父(7)	12/12-13 天城山/伊豆(19)	1/19 北高尾山稜(中央線沿線)
11/20-21 天城山/伊豆(6)	12/12 曾我丘陵/松田(10)	1/30 曾我丘陵(松田)
11/20-21 蛭ヶ岳 檜洞山/丹沢(5)	12/12 本社ヶ丸/中央沿線(8)	2/5-6 北八ヶ岳
11/20-21 西谷山 雲取山/奥多摩(2)	12/31-1/1 竜ヶ岳(富士山周辺)	2/6 丹沢白山(丹沢)
11/21 三国山/富士(7)	1/3-5 氷の山(中国山脈)	2/11 多摩川沿い35kウオーキング
11/28 金剛山/中央沿線(1)	1/4 港七福神(東京)	2/11 鋸山(千葉県)
12/4-5 養老溪谷/大喜多(7)	1/8 小田原七福神と旧跡巡り	2/16 奥多摩(初級雪トレ)
12/5 南山/丹沢(14)	1/9 真鶴半島(伊豆)	2/20 手のひらの中の目黒(東京都)
12/5 岩山/栃木(3)	1/8-10 ハヶ岳(夏沢峠)	2/20 浅間尾根(奥多摩)
	1/15 伊予ヶ岳～富山(南房総)	

川崎柴笛クラブ

報告：砂原浩二 計37名(男22 女15) 平均48歳

12/4-5 八方尾根(8)	(1)	(2+3)	12/28 塔ノ岳(1)
12/5 青梅丘陵(1+1)	12/17 鷹取山(1+2)	12/25 湯河原幕岩(1+1)	12/31-1/1 西穂高岳(1+1)
12/5 鍋割山(1)	12/18 奥多摩むかし道(1)	12/25-26 天狗岳(1+1)	1/3 鍋割山(1+1)
12/5 城ヶ崎(2)	12/18-19 富士山(1+1)	12/29-31 湯ノ丸高原(1+1)	1/4 武甲山(1+1)
12/11-12 城ヶ崎(1+1)	12/18-19 奥多摩(9)		1/4-5 筑波山(1)
12/12 高尾山(5)	12/19 湯河原幕岩(1+1)	12/23 塔ノ岳(6)	1/3 湯河原幕岩(5)
12/10-12 広河原沢(3)	12/23 広沢寺(1+1)	12/29-31 広河原沢(2)	1/8-10 長沢背稜(5)
12/11 湯河原幕岩(1+1)	12/23 谷川岳(3)	12/28 景信山(1)	1/9-10 尾白川溪谷(9)
12/18 金時山-明星ヶ岳	12/23-24 裏同心ルンゼ	12/30-1/3 霞沢岳(4)	1/10 湯河原幕岩(2)

アルパインクラブ横浜

報告 = 岸 直哉 計38名(男23: 女15) 平均 歳

12/1 塔の岳, 丹沢山(1)	12/10 湯河原幕岩(1+1)	12/19 富士山(雪上訓練)	練(2)
12/4 塔の岳(2)	12/11 塔の岳(1)	(7)	12/26 丹沢主脈(1)
12/4-5 富士山(1+5)	12/12 三浦半島(6+1)	12/23-24 ハヶ岳(アイスキャンディ, ジョウゴ沢)(1+1)	12/27 塔の岳, 丹沢山(1)
12/5 湯河原幕岩(3+1)	12/12 京都東山(トレイルレース)(1)	12/24 ハヶ岳(アイスキャンディ)(1+1)	12/28-31 甲斐駒ヶ岳・尾白川・黄蓮谷右俣(2+2)
12/5-6 小同心クラック, 大同心南稜(1+2)	12/12 城山(1+1)	12/25-26 富士山(雪上訓練)	12/31 御岳ボルダー(1+3)
12/8 塔の岳, 丹沢山(1)	12/18 富士山(雪上訓練)(8)		12/31 高尾山(1)

横浜ハイキングクラブ

報告 = 丸尾真知子 計54名(男22: 女32) 平均62歳

12/9 室内例会(43)	12/23 大山三峰(10)	12/19 塔ヶ岳(1)	1/15 運営委員会
12/5 金時山-明神ヶ岳(9)	12/4-5 富士山・雪山訓練(県・19)	12/19 東丹沢/大山山麓(下見)(1)	1/9 玄岳
12/11-12 35周年記念山行 弘法山(10)	12/4 大室山～加入道山(3)	12/24-25 奥秩父/和名倉山(3)	1/10 鎌倉七福神めぐり
12/19 能岳～八重岳(9)	12/4 弘法山(2)	12/27 鬼ヶ岳～金山～節刀ヶ岳(2)	1/16 高松山
12/23 高麗山-湘南平(9)	12/6 本社ヶ丸～鶴ヶ鳥屋山(1)	1/13 室内例会	1/20～23 草津スキー
			1/30 景信山(餅つき山行)

事故や怪我の報告

屋久島で女性メンバー(64歳)が歩行中に呼吸困難になり男性メンバーがしばらく背負って歩くうちに幸いに回復した。体調管理の大切さ、病人の搬送方法のトレーニングの必要性を痛感。携帯電話が通じない屋久島では無線機器を持っているガイドさんを使うべきであったとも反省。

横浜こぶしの会

報告=南雲哲男 計25名(男18人 女7人) 平均55歳

12/11 シタンゴ山	1/7-10 ゲレンデ 峠-野沢	1/13 室内例会
12/12 大山北尾根	1/9 塔ノ岳	1/25 運営委員会
12/18 金時山	1/9 高川山	1/29 三浦アルプス
12/25-26 ハヶ岳雪トレ	1/6-7 丹沢	

藤沢山の会

報告=中河原昭夫 計97名(男47:女50)平均64歳

12/1 運営委員会(10)	12/25-26富士山・雪山ト(14)	1/12 室内例会
12/1 丹沢・大山三峰(7)	12/25-26 八ヶ岳・硫黄岳(3)	1/13 奥武蔵・伊豆ヶ岳(3)
12/2 南関東・養老渓谷(4)	12/26 丹沢・ガツリ峰・黍殻山(3)	1/15-16 丹沢・塔ヶ岳(1)
12/4 丹沢・鷹落場・矢倉 岳(1)	12/27 30周年実行委員会	1/19 30周年実行委員会
12/6 箱根・万葉公園(1)	12/31-1/1 丹沢・塔ヶ岳(1)	1/22 箱根伊豆・沼津アプス(3)
12/7 機関誌印刷・製本(1 6)	1/4 丹沢・大山(7)	1/26 室内例会
12/8 室内例会(40)	1/5 運営委員会	2/2 運営委員会
12/11-12 箱根・忘年山行(山行参加32,宿泊36)	1/5 丹沢・浅間山・聖峰(13)	2/5 箱根伊豆・玄岳
12/12 箱根・湯河原峠(1)	1/8 富士周辺・大丸山・金丸山(1)	2/8 機関誌印刷・発行
12/17 丹沢・鐘ヶ岳北尾 根(4)	1/8 南関東・大楠山(1他)	2/9 室内例会
12/18 丹沢・刈ノ丸・本間の頭	1/8-9 八ヶ岳・赤岳(3)	2/11-13 北関東・武尊山
12/18 丹沢・広沢寺岩ト(2他)	1/8-9 八ヶ岳・硫黄岳(5)	2/12 大菩薩・源次郎岳
12/18-19 箱根・金時山(5)	1/8-10 八ヶ岳・硫黄岳・天狗岳(6)	2/23 室内例会
12/25 大菩薩・滝子山東陵(1)	1/8-10 南関東・房総郡界尾根(2他)	2/26 南関東・二子山・田浦梅林
	1/11 機関誌印刷・発行	2/27 富士周辺・双子山

みずなら山の会

報告:末吉悦子 計40名(男26 女14)平均60歳

11/10 例会	11/27 丹沢犬越路～大室山(3)	12/10 湯河原幕岩(1+3)	12/25-26 只見町夕沢～古民家裏山(1+13)
11/13 湯河原幕岩(8)	11/28 鷹取岩場清掃(4+3)	12/11 鷹取山(5)	12/26 丹沢戸沢～新大日(1+1)
11/14 湯河原幕岩(5+2)	11/28 湯河原幕岩講習会(2+他)	12/11 丹沢仏果山～経ヶ岳(3)	12/26-28 八ヶ岳南沢大滝他(1+1)
11/13-14 奥多摩日原林道・雲取山・鷹ノ巣山(1)	11/27-28 奥多摩西谷山・東日原(1)	12/11 奥多摩蕎麦粒山他(1)	12/27 丹沢大山三峰(5)
11/20-21 表妙義(3)	12/4-5 忘年山行丹沢観光センター-花立山荘(15)	12/12 高尾踏査(2)	12/29-30 美しの森～天狗尾根(敗退)(1+5)
11/20-21 妙高 金山(1+1)	12/4-5 リーダ-学校富士山雪トレ(1+他)	12/15 河又(1+3)	12/30 愛鷹連峰越前岳(4)
11/21 城山(4)	12/8 例会	12/19 富士山雪トレ(10)	1/3 鍋割山(3+2)
11/24 湯河原幕岩(1+3)	12/9-10 湯河原幕岩(1+1)	12/19 鷹取山(1+1)	1/3 鷹取山(3)
11/26 湯河原幕岩(2+1)		12/23 蛭ヶ岳(3)	1/4 蓼科山(5)
11/27 湯河原幕岩(3+2)		12/23-24 金時山～宮城野(3)	

事故や怪我の報告

12月4～5日忘年山行・丹沢観光センター付近で車2台車上荒らしの被害あり。

カモの会

報告:森谷準一 計58名(男40:女18)平均36.2歳

12/4 裏同心ルンゼ(1+3)	12/13 毛無山-十二ヶ岳-鬼ヶ岳(1+1)	12/26 伊豆・城山(2+1)
12/4 富士山・雪訓L学(6)	12/18 赤岳主稜・石尊稜(1+1)	12/29 八ヶ岳・天狗尾根・旭東稜(1+5)
12/4 日和山・岩トレ(4)	12/18 北八・天狗岳(8)	12/29 巻機山(1+3)
12/5 塔の岳(2)	12/20 白毛門(2)	12/30 南ア・甲斐駒・仙丈(6)
12/5 城ヶ先・フナムシロック(2)	12/23 湯河原・幕岩(1+3)	12/31 北八ヶ岳(4)
12/11 富士山・雪訓(24)		

やま+

報告:栗田 彰 計15名(男11:女4)平均51歳

12/9 早戸大滝～本間の頭(中止)	1/4 初詣登山・明神明星	1/22-23 新年会・黒斑山他
12/15 望年会(14+1)	1/8-10 蓼科山	1/26 例会
12/22 例会(10+1)	1/8-9 雪崩講習・白馬	1/29 大山三峰(マイナー)
12/25-26 鳳凰三山(3)	1/12 例会	



登山時報 1月号 目次

西北ネパール辺疆に魅せられて 大西保 03

山のスケッチ 森村征男 08

連載 クイズ 地図読み迷人 村越真 宮内佐季子 09

野鳥との出会い アオサギ 小枝琢三 10

シグナル 共済救済の法律案がようやく成立 斉藤義孝 12

個人会員制導入の基本構想(案)大澤辰雄13

特集 いま、なぜ個人会員制なのか?(4)

まだやるべきことが...いまが組織拡大のチャンス組織の優位性を伝えること 洞井孝雄

岩山の再建プランが必要数年をかけて夢のある計画と実行を 佐々木雅博 15

紅葉に魅せられて六郷満山を歩く 国東半島一泊二日の山旅 川東洋子 18

山で気になるカンキョーの話 菊地敏之 21

こんなメジャーな冬山の、隠れたマイナー

ルート/ ア・ケ岳東尾根2008年年越し 初鹿裕康 22

谷川岳 ふもとの温泉で 第10回全国ハイキングリーダー学校 石川友好 24

生物多様性COP10in名古屋 浦添嘉徳 26

JWAFクリック 28 編集後記 34

連載 碧い南の島だより 雨宮節 30

全国連盟の活動 31 専門委員会活動報告32

不死-ひと 筑井孝子さん 橋口晴彦 35

地元会員特選ミニガイド 奈良・三輪山/眞重隆臣 36

静岡・秋葉山/近藤鏡 36

ブックエンド 『掲海新道を拓く』他 後藤功一 他 38

会報えつらん室 記念号特集号 中島典子40

オススメ山道具 高機能タイツ その3 笹原芳樹 42

県連のスケジュール

1月			2月		3月
1	土		1	火	
2	日		2	水	登山リーダ養成学校修了
3	月		3	木	
4	火		4	金	
5	水	登山リーダ養成学校机上	5	土	
6	木	常任理事会	6	日	丹沢大山里山交流会
7	金		7	月	連盟news印刷
8	土		8	火	事務局長会議/連盟news発行 救助隊運営会
9	日		9	水	
10	月	連盟news印刷	10	木	
11	火	事務局長会議/連盟news発行	11	金	
12	水		12	土	
13	木		13	日	臨時総会
14	金		14	月	
15	土	救助隊積雪搬出訓練 関東B雪崩事故防止講習	15	火	
16	日	救助隊積雪搬出訓練 関東B雪崩事故防止講習 湯河原梅林環境保全活動	16	水	
17	月		17	木	事務局部会
18	火		18	金	
19	水		19	土	登山リーダ養成学校実技
20	木	事務局部会	20	日	登山リーダ養成学校実技
21	金		21	月	自然保護委員会 クリーンハイク実行委員会
22	土	登山リーダ養成学校実技 自然再生活動報告会	22	火	
23	日	登山リーダ養成学校実技	23	水	
24	月	自然保護委員会 クリーンハイク実行委員会	24	木	
25	火		25	金	
26	水		26	土	
27	木		27	日	自然保護委員会 クリーンハイク実行委員会
28	金		28	月	常任理事会
29	土				
30	日				
31	月	常任理事会			

2010年・2011年度の全国的な規模の集会・会議予定

関東ブロック雪崩講習
第29期第1回評議会

2011年01月15日(土)～01月16日(日)
2011年02月19日(土)～02月20日(日)